

推薦文

文化科学研究科・日本文学専攻・助教授 伊藤 鉄也

本論考執筆者の大内英範は、総研大文化科学研究科日本文学研究専攻に在籍している。日ごろ国文学研究資料館において、原典資料を扱う研究手法を学んでおり、本論考もそうした手法に基づく研究成果である。なお、本論考は、博士論文の中核部分の一部となる予定のものである。

源氏物語の本文研究は、池田亀鑑氏による『源氏物語大成』を代表とする一連の著作によって、半世紀以上も前に確立したかに思われ、その後の進展をみないままとなっていた。いわば半世紀以上も手つかずに等しい状態であった本分野において、特に鎌倉期写本の研究は急務である。

本論考では、鎌倉期写本の中でも特に「池田本」に注目し、その書写態度について論じている。本文訂正の痕などを手がかりにまず内部徴証から、ついで他本との比較（いわば「外部徴証」）によって、書写態度を分析し、その親本本文の状態にまで言及している。

天理大学および東洋大学にて実際に写本を調査し、これまで論じられることのなかった「書写態度」を分析した本論考は、今後の源氏物語本文研究にとって新しい視点を提供するものと考え、ここに推薦するものである。